1. ワークショップの概要

1.1 第５回ワークショップ

第５回ワークショップの概要は表 1 に示すとおりであり、主な議事を表 2 に示した。

第５回ワークショップでの議題は春季調査結果と夏季調査予定についての確認であり、主な指摘事項は以下のとおりであった。

・改変箇所の植生変化は、１年だけのモニタリングだけではなく何年間は調査した方が良い。
・常磐公園を通常利用している動物の、生息状況の変化について整理することがポイントである。

表 1　第５回常磐公園自然環境調査ワークショップの概要

日　時:平成 29 年 7 月 14 日（金）18:00～20：00

場　所:旭川市第 3 庁舎土木部第 4 会議室

出席者:

◆有識者

塩田　惇（あさひかわ自然共生ネットワーク）、出羽　寛（あさひかわ自然共生ネットワーク）、寺島　一男（あさひかわ自然共生ネットワーク）、南　尚貴（旭川市科学館）

◆業務受託者

前田　敬（管理技術者）、舟口　義臣（担当者）

◆事務局

水野　雅博（土木部公園みどり課）、　山﨑　正太（土木部公園みどり課）
大窪　俊英（土木部公園みどり課）

配付資料:

・第５回ワークショップ議事次第（A4 1 頁）
・常磐公園自然環境調査　第５回ワークショップ資料
（自然環境：春季調査結果・夏季調査予定）（A3 32 頁）
・常磐公園自然環境調査　第５回ワークショップ資料　資料編
（自然環境：春季調査結果）（A3 15 頁）
・常磐公園自然環境調査　第５回ワークショップ資料（魚類調査について）（A3 4 頁）
・調査工程表（A3 1 頁）

表 2(1)　第 5 回常磐公園自然環境調査ワークショップにおける主な議事

懇談会の概要
●常磐公園自然環境調査の業務計画説明 　受託者の株式会社建設技術研究所より春季調査結果について説明を行い、有識者及び事務局と意見交換を行った。議事概要は以下に示すとおりであり、調査項目別に示した。 **(1)植物調査** ・シロツメクサが外来種の表記になっているが、吹付け種であることから、表中に外来種であっても吹付け種である表記があるほうが良い(有識者)。 ・なぜ、外来種であるシロツメクサを吹付けたのか(有識者)。 　→市民ワークショップで在来種の吹付けを基本としたが、外来種全てが悪いわけでなく、子供のころに親しんだ思いからシロツメクサを追加することとした(事務局)。 ・最初に在来種を中心に吹付けたとしても、外来種の生育が旺盛なので、1年だけのモニタリングだけではなく、何年間は調査した方が良い(有識者)。 ・樹木の実生が今後侵入してくると思われるが、その実生はどのようにしていくのか(有識者)。 　→現時点では、除草等の管理をしていないが、生育を確認した場合は残して行く考えである(事務局)。 ・群落組成調査結果は、種の一覧だけでなく、面積比等の量的なデータも示してほしい。 　→とりまとめでは種数だけでなく、植被率を集計したグラフ等も記載する。(受託者)。 ・被度・群度については一般の方がわからないので、ブラウンーブランケ法の凡例・資料を記載すること(有識者)。 　→被度・群度の説明として、ブラウンーブランケ法の凡例を記載する(受託者)。 ・「～の 1 種」と何種かあるが、写真か標本はとってあるか(有識者)。 　→夏季調査で同定できる可能性があるので春季調査ではとっていない。夏季調査でも同定できなかった種について、標本や写真を残す予定である(受託者)。 ・イワミツバについて確認株数で表記しているが、群落の規模を表記したほうがわかり易い。 　→株数のほかに、面積等の群落の規模を併記するようにする(受託者)。 **(2)鳥類調査** ・整備後調査で確認されなかった、ハリオアマツバメ、エゾムシクイ、ベニヒワなどはタイミングが合わないと確認されない種である。記録としては重要であるが特に問題はない。法律等で指定されている重要種や確認された種数とかではなく、常磐公園を通常利用している種が確認されていることが大切なことである。 　→常磐公園を繁殖利用している種などを中心に、取りまとめていく(受託者)。 **(3)両生類・爬虫類・哺乳類調査(コウモリ類調査)** ・常磐公園において、6/13 に確認したときは、数回飛翔しただけで確認はできなかった。7/3 は 30 頭程度、7/10 は 44 頭確認した(有識者)。 ・ヤマコウモリは北海道レッドリストが平成 28 年 12 月に改訂され、旧カテゴリーR(希少種)より Nt(準絶滅危惧)に改訂されたので修正しておくこと(有識者)。 　→修正する(受託者)。 ・常磐公園内で FM 音※がいくつか確認されている。FM 音が聞こえているということは、モモジロコウモリ、チチブコウモリかいる可能性がある(有識者)。 　※FM音:FM 音とは、パルスとエコーが重なると解読できない種が、一回のパルスの間に周波数を変調させエコーを解読するエコーロケーションの変調名称。 **(4)微気象調査** ・最多風向を見ると西側の樹林が大きく影響しているように見える(有識者)。 気象調査の手法のみで考察を行うのではなく、樹木の影響等違った観点で調査・考察を行ったほうがよい(有識者)。 　→今回の報告は春季調査結果のみを比較した報告であるため、今後行う夏季調査の結果を合わせて、整備前、整備後の比較を行う(受託者)。 ・気温が平均気温のみしか示されていないので、最高・最低気温も示してほしい(有識者)。 　→最高・最低気温も示すようにする(受託者)。 ・風速の強弱、風向によって特徴が出ていたと思うので、それについても考察すること(有識者)。 　→風速の強弱別、風向別に取りまとめて行く(受託者)。

表 2(2)　第 5 回常磐公園自然環境調査ワークショップにおける主な議事

懇談会の概要
(5)夏季調査時期・調査方法の確認について ・夏季調査は、植物及び両生類・爬虫類・哺乳類調査が 7 月下旬、昆虫類調査及び微気象調査が 8 月中、下旬を予定している(受託者)。 ・夏季調査方法は、前回のワークショップで確認したとおり実施する(受託者)。 →良い(有識者)。 **(5)追加調査について** ・現在、市では千鳥ヶ池の悪臭について苦情を多数うけているところである。利活用促進のため、水質改善にむけ対策を取り組んでいきたいところであるが、具体的にどのような対策があるか。(事務局) ・千鳥ヶ池の将来的な水質改善の基礎資料とするため、現在の魚類相について調べることが一つの方法であると考えられる。現在、自然環境調査を一連で行っているので、それにあわせ魚類調査を行うこととする(有識者・事務局)。 ・調査地点・調査方法は、整備前後の比較もできるように前回と同様とし、調査時期は、7 月から 8 月の間に1回行う(事務局)。 →了解した(有識者)。 **(6)その他** ・法律等で指定されている重要種、外来種も大切であるが、調査目的の「常磐公園内の生態系の特性の把握」がポイントとなるため、この捕らえ方を中心に取りまとめること。 ・第 4 回ワークショップより目的の文面が、変わってきているため、確認しておくこと。 →取りまとめ時には、以前のワークショップで記載されていた目的も合わせて取りまとめていく(受諾者)。